校訓	自分を育て　自分を生かし　社会を明るく	令和６年度学校だより 「天の子」 第１４号	発行日	令和7年１月１6日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～主体的に学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 永嶺　香織

阪神・淡路大震災から３０年

平成７年（１９９５年）１月１７日午前５時４６分、淡路島北部を震源とするマグニチュード７．３の地震が発生しました。建物倒壊や家具転倒、地震発生直後に発生した火災等により死者６４３４名、負傷者４万３７００余名に上る甚大な人的被害をもたらしました。さらに交通路や水道、電気、ガス、通信等のライフラインも寸断しました。２０世紀史上、関東大震災に次ぐ、地震災害となりました。犠牲になられた６４３４名の方のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

あの震災から３０年が経ちます。私たちはこの３０年、大きな困難を乗り越え、復興の道を歩んできました。

しかし、この間には、新潟県中越地震や東日本大震災、昨年の能登半島地震等、地震災害が発生しています。さらに、南海トラフを震源とする巨大地震（マグニチュード８～９程度）が今後３０年以内には８０％程度、４０年以内には９０％の確率で発生すると言われています。この地震が発生した場合、伊丹市は最大震度６程度の地震が発生すると想定されています。いつ、私たちが被災するかわかりません。そのためにも、防災意識を高め、災害が発生したら何をしなくてはいけないのか考えておく必要があります。この防災の取り組みでとても大切なことは「自助」「共助」「公助」です。

自助→自分自身や家族の命を自分で守ること。 ・災害発生時の避難経路や避難方法の確認、避難できる場所の確認（家、学校、それ以外の場所でも） ・飲料や食料、非常持ち出し品の準備 ・家具等の転倒、落下防止策 ・家族との安否確認や伝達手段の確認、確保など
共助→自分の安全を確保した上で、家族や近所の人たちと助け合うこと ・支援の必要な人の避難支援や救出 ・避難所でのお手伝い ・避難後の生活への貢献など
公助→行政による公的な支援のこと ・役所や消防、警察、自衛隊、などによる救助活動や支援活動など

この３つの「助」はどれも大切であり、どれかが欠けても防災は成立しません。そして、人の命を守るために最も有効なものとして、消防や警察、自衛隊などの救助活動である「公助」に期待をしたいところですが、大きな災害が発生した場合は、公助だけでは被災者一人ひとりへの対応ができず力が及ばないと言われています。

地震発生直後に起こる建物倒壊や家具転倒、火災、津波等による災害から身を守るためには、平常時・災害時どちらにおいてもやはり「自助」「共助」が有効なのです。

私たちは、「自助」である「自分の命を自分で守る」という意識をしっかりと持つことが重要です。そのためにも防災グッズ等の備えをしておかなければなりません。また、「共助」においても、近所や地域のことを知っておいたり、助け合ったりすることができる体制を作っておくことが大切です。

明日１月１７日（金）は避難訓練と防災学習を実施します。４時間目は、日本財団ボランティアセンターの方に「ボランティアについて知ろう」というテーマで講演を行っていただきます。災害が発生した時に、中学生のみなさんが「中学生としてできることは何か」を、みんなで考えたいと思います。

また、５時間目は各学年で「自助」や「共助」について学習します。生徒のみなさんは大きな災害を経験していません。だからこそ、これまでの災害について知り、災害から学び、災害に備えるための学習をしっかりとしてほしいと思います。学校では、子どもたちの「自助」「共助」意識を高める防災学習や人権・道徳教育等を推進していきたいと考えています。

１月１６日（木）午後５時４６分、昆陽池公園では、「第３０回阪神・淡路大震災犠牲者追悼のつどい あなたの思いを灯してください～失った命の数をロウソクの灯火にこめて～」が行われます。６４３４本のロウソクを１２時間灯し続け、亡くなられた方への追悼と鎮魂の祈りを捧げる追悼の集いです。本校からは生徒会本部役員がボランティアとして参加します。運営のお手伝いをさせていただきます。「震災を語り継ぎ、風化させることなく、未来へつなげる」中学生にできることの１つです。

天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_tenn/index.html

※右の QR コードをお読みいただくと、天王寺川中学校のホームページをご覧になれます。